



ぶどうの樹

NO. 8



特集1 聴く！ 本学の様々な方へのインタビュー

長崎外国語大学はこう変わる！ 石川 昭仁 学長
社会人入学生に聴く 吉岡みどりさん・大畑順子さん ほか

特集2 コミュニケーション・ラウンジの新設について

長崎学院創立65周年・大学開学10周年記念事業

トピックス ANA との産学連携が開始 ほか

長崎外国語大学は こう変わる！

～石川新学長に聴く～



2005（平成17）年4月より6年間に亘って学長を勤められた池田紘一前学長の後任として本年4月より本学教授であった石川昭仁教授が新たに学長に就任しました。初代の光田明正学長から数えて3代目、2001年の開学から長崎外国語大学も十年を迎えて、今まで以上にその真価が問われる段階となります。本学の一層の発展に強い意欲を燃やす石川新学長に、就任にあたっての想いを聴きました。

2か月で
300人以上の方と
お会いしてきました

学長に就任されて3カ月、
「自身の生活や身の周りで、
一番変化したと感ずるのは
どの様な場面でしょうか？」

様々な分野で活躍されている多くの方々に会うようになった事でしようか。就任の際、官公庁や企業の方など各方面へ挨拶に廻った際に、「頑張つて下さい」との有難い励まし言葉の数多く頂きました。こうした機会に、本学の学長という重責を担う事になったのだ、との思いを強く感じ、身の引き締まる思いです。就任から2カ月の間に、300人以上の方とお会いしました。また、学長就任を知った卒業生の皆さんが電話やメールなどで激励してくれたりして、大変嬉しく思っています。

また、学長就任以来、今まで以上に体調管理、健康に気を遣うようになりました。

その一つとして娘の勤めもあり、最近では自転車に乗るようになりました。常に車の後部座席に自転車を積んでいて、時間のある時に気分転換も兼ねてサイクリングを楽しんでいます。

学生の皆さんの話を
直接聴きたいと
考えています

3代目にして初めての本学生え抜き教員からの学長就任。大学の代表としてお忙しい立場となり、学生と接する機会が減ったことと思いますが寂しくはありませんか？

そうですね。寂しさもありますがそれがそれ以上に大学の「現場」（教室）での学生の皆さんとの接触が減ったことに不安を感じています。大学にとって顧客ともいえる学生の皆さんの直接の反応を知る機会には確かに少なくなりました。そのため、昼休みの学生食堂などで、機会を見つけては皆さんに声を掛けるようにしています。

す。今後、学生の皆さんから直接お話を聴くことの出来る仕組みも整備していきたいと考えています。

「語学力」
「コミュニケーション力」
「人間力」を鍛えます

学長としてまずどの様な事に取り組まれないとお考えでしょうか？また今後の本学のカリキュラム（講義内容）や教育環境の整備・発展についてお聴かせください。

大学4年間を本学で学ぶことができ良かった、と思われよう、学習成果を上げるための教育改革を進めています。本学で教育を受ける学生が、学んだその成果を着実に挙げていくことが出来る仕組みを作ります。そのための具体的な施策が本年度から実施する「全学的就業力育成システムの再構築」です。これは2010（平成22）年度の文部科学省の教育改革支援事業である「大学生の就業

力育成支援事業」に採択されたもので、今後4年間続くものです。

本学は2009(平成21)年度、幅広い分野で活躍出来る職業人の養成を目指すべく、「語学力」「コミュニケーション力」「人間力」を鍛え、「真の対話と相互理解によつて共通の目標を一致協力して実現する力を備えた人材を養成する」という明確な教育目標を掲げて、1学部1学科体制から外国語学部「現代英語学科」「国際コミュニケーション学科」の2学科体制とする学科改組を行い、全学的な教育課程の刷新を行いました。今回採択された取組は、この教育改革を体系的に推し進めるためのものです。具体的内容は6点にまとめられます。

1、教育課程のシステム化

学生が適切な授業選択を行い計画的な学修が行える様に教育課程の体系化を図ります。

各講義の到達目標を明示し、「どの科目を履修すれば、

何が出来るようになるのか」を明示し、その達成度を授業の学習成果として測定します。

2、新シラバス・システムの導入

「シラバス」システムにカリキュラムマップ、個々の講義の詳細シラバス、行動目標や評価方法を数値的に記述したマトリックスを収録し、学生の進路選択に応じた学習計画を支援します。

3、学修ポートフォリオ・システムの導入

個々の科目の学修成果を測定し、「学修ポートフォリオ・システム」で学生に提示します。

これによつて学修成果を指標的に知る事が出来ますので自律的に学修計画を立てる事が出来るようになります。このPDCAサイクルを4年間、定期的に繰り返す事で学生の学ぶ意欲を引き出し、社会的職業的な自立を促します。

4、就業力育成に向けた全学的教育体制・指導体制の確立

「人間力」就業力」育成指導の要となるのは学生20

名、30名に対しての1名のアドバイザー教員です。アドバイザー教員は「学生カール」に記載された留学、インターンシップ、ボランティア活動や検定試験の結果等の個人情報に加えて先に述べた「学修ポートフォリオ」の内容を随時モニターし、修学上の指導・助言を行います。また「SNS」システムを活用してキャリア支援のためのコミュニケーション広場を開設し、卒業生・企業人等の参加を得て、就業支援の場とします。

5、実務家教員による授業とプロジェクト科目の充実

キャリアプランニング科



目並びに「国際ビジネス」

「観光ホスピタリティ」

「通訳翻訳」の各分野で社会の第一線で活躍する実務家による授業を実施します。

特に「観光ホスピタリティ」分野ではANA(全日本空輸株式会社)グループと連携を図り、汎用性の高い「ホスピタリティ」力の養成に力を入れます。「通訳翻訳」分野では同時通訳システムを導入し、実践的な指導を行います。

6、海外留学プログラムの充実と海外インターンシップの実施

「人間力」就業力」育成の観点から海外留学プログラムの教育目標を明確にし、5つの指標(①知識を理解し取り込む力②論理的思考力・問題解決力③効果的なコミュニケーション力④チームワークとリーダーシップ⑤学習に取り組む態度・意欲)によつてその学修効果を測定します。また世界で活躍できるグローバル人材を育成するため、国際交流協定大学と連携しながら「海外インターンシップ」を推進します。

なるほど。授業はもちろ

んですが留学など含め学修

内容とその効果を明確に把握

できる仕組み作りとPD

CAサイクルを確立させる

という事がポイントの様

ですね。先の質問と重複する

かも知れませんが、学長と

して本学をどの様な大学に

していきたい、とお考えで

しょうか?

そうですね、小さくとも

キラリと光る、個性のある

大学にしたいと考えていま

す。東アジア・環太平洋地

域で活躍出来る、優秀なグ

ローバル人材の育成を目指

して行きたいと考えていま

す。

教職員間の
ビジョンの共有が
欠かせない

そう思われる理由は?

ご存じの通り、長崎は地理的にも東アジアの国々に近く、歴史的、文化背景もこうした国々の影響を色濃く受けてきました。またグローバル化の進展とともに

ヒト・モノ・カネ・情報の流動性が特に東アジアにおいて高まっています。大学としても18歳人口の減少する中、東アジアからの留学生の受け入れや海外の大学との交流を避けて通る事はできません。こうした本学の学習環境を活かして、今後発展の期待される地域の一つである東アジア・環太平洋において、様々な分野で活躍出来る人材を育成したいと考えているのです。

その実現のためには、教職員間において「こうした学生を養成するのだ」とのビジョンの共有も重要な課題です。

今、話に出ました東アジア・環太平洋地域で活躍出来る人材育成のための具体的な取組としてはどの様なものがあるのですか？

まず、海外留学プログラム。例えば、本学の留学プログラムにおいては台湾に留学し、中国語を学びながら台湾の学生と共に英語を学ぶ、という事もあるでしょう。またアメリカの国際交流機関USAC (University Studies Abroad Consortium) と協定を結んで

まず、海外留学プログラム。例えば、本学の留学プログラムにおいては台湾に留学し、中国語を学びながら台湾の学生と共に英語を学ぶ、という事もあるでしょう。またアメリカの国際交流機関USAC (University Studies Abroad Consortium) と協定を結んで

社会で活躍できる
学生を育成するために

いますので、先ず半年間アメリカの大学に留学してそこで英語やグローバル・ビジネスについて学び、次の半年間そのアメリカの学生達と共に中国へ留学し、現地で中国語や中国経済について学ぶ、という様な留学スタイルも可能です。こうした異文化横断的留学が可能であることも本学の大きな特色の一つです。

また本年度より実施し始めた「社会人特別入試」の一つの狙いは、大学と地域社会との壁を低くし、「社会がキャンパス、キャンパスが社会」のような状況をつくることにあります。昔に比べて学生たちも様々な社会人と接触する機会が

減ってきているように思われます。例えば大学生活においても同年代のクラスメイトと、大学の教員、他にはアルバイト先の店長の方くらいとしか人との接触の無いまま4年間を過ごしてしまう学生もいることでしよう。学修意欲も高い社会人の方々に学生として入学して頂く事で、大学が本来果たすべき役割の一つである

コミュニケーション（共同体、地域社会）としての機能を活性化する事は学生の「人間力」「就業力」向上にも繋がります。大学が知識の伝授のみではなく、社会的行動力・実践力を育成する場としての機能を回復させるための試みとも言えます。

石川学長を知る



一問一答

- Q ご出身は？
福岡の筑前町です。太宰府に近い田舎町です。
- Q ご趣味は？
釣り、サイクリングです。
- Q 好きな本を教えてください
仕事のために、最近ピーター・ドラッカーの著作を読んでいます。
- Q 好きな言葉、座右の銘などあれば教えてください
強いて挙げるなら「アドバイスする人は多いが、アシスタンスしてくれる人は少ない。」アメリカの思想家、H. D. ソロウの警句です。
- Q 尊敬する人、影響を受けた人はどなたですか？
高校生時代に、湯川秀樹博士のエッセイ『創造的人間』を読んでとても感激したのを憶えています。高校3年間理系クラスにいて物理が得意でした。

お話を伺っていると石川学長は学生に、社会で活躍出来る人材になって欲しいと強く願っている様ですね。そうですね。社会で活躍出来なければせっかく学んだ語学も活かせません。社会で活躍するためにはコミュニケーション力、問題解決力などの「人間力」とでも呼ぶべき要素が欠かせ



執務中の様子

ません。本学での教育の全ての場面を通じて、学生がこうした力を涵養出来る環境を整備していきたいと考えています。

最後に、卒業生の皆さんへメッセージをお願いします。

今年で大学開学10周年、長崎学院創立から65周年を迎えます。卒業生の皆さんも、機会あれば是非、気軽に本学を訪ねて頂きたいと思えます。

ありがとうございました。
(2011年6月29日 於 学長室)
以上

社会人入学生に聴く

「生涯学習」という言葉を見聞きする機会が増えてきました。都市部の大学では既に公開講座や科目履修生として社会人や社会人経験者が大学で学ぶ姿は当たり前のもとなつていきます。本学においても社会で長く活躍されてきた方々も入学され始めています。忙しい中にも充実した学生生活を過ごされている二人の方々に話を聴きました。



吉岡みどりさん

ライブラーが 気に入っています

お忙しい毎日をご過ごされている様ですね

はい。一時限目から講義が入っている事が多いです。そして、課題等も出来るだけライブラーで片付けていく様になっています。私はライブラーの空間が好きなのです。ここが入学のきっかけになつたくらいに

その入学のきっかけについて

聴かせて下さい。

私は長く受付の仕事をしてきて一区切りついた時に、英語の勉強をしようか、琴を教える事にしようか、それとも別の何かを始めようか……と色々迷っていたんですね。そんな時にこちら(本学)にお話を伺いに来られたのです。その際、担当の長野さんが(長野雅文 現キャリア支援室長)丁寧に対応して下さいました。学内見学もさせて頂いたんです。その時に初めてこちらのライブラーに入って「ああ、ここなら静かに勉強に取り組みそうだな」ととても雰囲気が入ったのを憶えています。

これで大学の授業！

そうでしたか。日々の宿題に取り組まれるなどライブラーを活用されている様ですが、現在特に力を入れて取り組まれている講義などありますか？あるいは卒業までにこれを達成したい、との目標などあれば教えてください。

現在は英検の2級取得を目指しています。受付の仕事をしていた時に英語で質問を受ける機会もあつたのですが、きちんと対応出来ない事に劣等感を感じていました。また姪がイギリス人と結婚した事もあり、英語の力を上げたい、との想いは強くあります。(本学に)入学する以前には、英会話教室などにも行ってみたいでしたが、文法を一からしっかり学べるのはやはり大学ならではの、だと思えます。英語のコンボジションの授業はじめ、教養科目など受講する多くの講義で「これぞ大学の授業！」という気持ちで感動しています。

ところで、箏曲部も吉岡さんが創設されたそうですね。(インタビュー)は2階の和室にて、箏曲部が練習する時間に行われました)

去年の12月から活動しています。きっかけは2年生になってようやく少しは課題への取組などに慣れてきた頃に、学園祭で琴の体験教室を開いた事でした。その時に留学生の何人かが



箏曲部員とともに

とても興味を持って、「是非教えてほしい」と言われた事から創部する事を思い立ちました。現在は部員も15名前後います。留学生の人も多いですね。毎週、水曜日の3時から7時30分の間に、2階の和室(茶室)で練習しています。

学生の皆さんは もっと積極的に、 自主的に動いてみては？

本学に望む事は何かありますか？

そうですね……、強いて言うなら学生の皆さんがもっと積極的に、自主的に動いて学生生活を充実させてほしいですね。英会話の授業などでも、留学生の方が積極的に参加している印象があります。大学は、様々な人と顔を合わせる事の出来る場なので、この機会を積極的に利用してほしいですね。

吉岡さん御自身は英語の勉強に、クラブ活動に、と様々な活躍されていますね。最後に、「社会人入学者」の先輩の一人として、大学での学びを検討されている方にメッセージをお願いします。

まずは飛び込んでみられたらいかがでしょうか？これから社会に出て活躍していこうという若者と、今更ですつと社会で働いてこられた立場の学生と、相互に刺激し合える部分がたくさんあると思います。

ありがとうございました。ますます活躍してください。

(2011年6月29日 於 和室)

続いて、大畑 順子さんは本年の4月より実施している「社会人特別入試」を利用しての入学者です。現在は現代英語学科1年に在学して意欲的に学修に取り組んでおられます。

この入学制度は生涯学習の観点から再び学びたい、との社会人の強い意欲に応えて大学進学希望者に対して、広く門戸を開放しようと制定されたものです。一定の社会人経験を有している人を対象に授業料免除の特典もあり、学ぶ意欲を後押しする制度です。

入学してみても3カ月経ちますが本学での学生生活の印象は？
ようやく生活のリズムがつかめてきたところです。予習、復習に忙しい毎日ですが、文法の小テストで、このままの成績では少し危ないと先生に指摘されて学習方法を工夫しなければと考えています。大学生活では、学生同士でも皆が挨拶を交わして、このコンパクトさならではの環境で多くの人と親しくなれそうな期待感があります。英語で日常会話が出来る様になりたいですね。よく、通学のバス車内でアメリカからの留学生と話をしています。もっとこの様な英語で話せる機会を求めていきたいです。



大畑さんが目にした新聞広告

家族の協力に心から感謝しています

入学して充実感を感じる場面や、大変だと感じるのはどの様な時ですか？

大変な事・・・毎週のようにテキストや暗記の課題があり、単語や英文を憶えるのが大変ですね。憶えたつもりでも全然思い出せない時など、年齢を感じてしまう事もあります。しかし、良くなる時は嬉しいです。こんな喜びを味わえるのも、家族の協力が

あつてのこと。私の本気で学びたい、との想いが伝わり、理解してくれている事を家族にはとても感謝しています。昔、自分が学生だった頃には、L1教室の様な設備は有りませんでしたし、ネイティブの先生もいませんでした。もっぱら英文を書く、もしくは文法の勉強が中心だった様に思います。リスニングの試験というのもありませんでした。私には、もともと英語には苦手意識がずっと有ったのです。英語の勉強は好きでしたが点数は芳しくなくて、高3の大学受験の際に、担任の先生に「英語で落ちるぞ」と言われたくらいです(笑)そのため、運よく大学の合格者発表で氏名が新聞に載ったのを先生がみてびっくりされました。

なるほど。では現在、改めて高校生時代苦手だったものに取組まれているという訳ですね。ところで、本学への入学のきっかけは何だったのでしょうか？

公民館などでの英会話教室にはずつと参加していたのですが、やはり自分に限界を感じていました。そんな折に(本学の)社会人特別入試の新聞広告を見たことがきっかけです。その広告に写っていた(社会人入学者の)吉岡みどりさん(前掲)の笑顔を見て、是非入学して吉岡さんにお会いしたいと思いました。

現在の、或いは卒業までの目標があれば教えてください。苦手な英語を克服すること

「外国人観光客に英語で長崎を案内する」ことです。自分の住んでいる町「長崎」のお役に立つことが出来ればいいな、と思っています。

分かりました。では最後に、本学への入学を検討されている社会人経験者の方へ一言お願いします。

まずは「社会人特別入試」を企画して下さい。大学に感謝しています。自分が本当に勉強したい事が学べる幸せは言葉で言い表す事が出来ません。条件を整えば入学をお勧めします。条件のひとつに家族の事がありますが、家事など、やはり家族の協力は欠かせません。大学で学ぶことへの理解を得られて家族への感謝の気持ちが改めて強くなりました。入学して良かったです。やはり、文法、作文、会話など全ての面でしっかりと基礎から学べますね。

どうもありがとうございます。(2011年6月29日 於 本学応接室)

お話を伺った吉岡さんも、大畑さんも忙しいながらも充実した毎日を過ごされている様子でした。吉岡さんには箏曲部の稽古中にお話を伺いましたが、留学生に「みどりさん」と呼ばれて慕われている感じが感じられました。大畑さんは何度も、学ぶ意欲を理解し、協力してくれている御家族への感謝の言葉を口にされています。

お二人に共通するのは、本学に入学されたきっかけは正しい事であったが、そこから大きく世界が広がった、という事です。お二人とも、生き生きとした雰囲気で見られる姿が印象的でした。

国内留学中の学生に聴く

4年生の松坂 慎一郎さんは現在、京都にて学生生活を忙しく過ごしています。京都外国語大学と本学の国内留学制度を利用して、今年の3月からの半年間を京都で過ごす予定です。

この制度は1年間、または半年間本学の学生が京都外国語大学に留学し、同時に京都外国語大学の学生が本学に留学する交換留学の制度で、本年の春から初めての交換留学生が、京都と長崎でそれぞれ学んでいます。京都での学生生活について話を聴きました。

現在ほどの様な毎日をお過ごしになっていますか？

一日2コマずつ講義を受講しています。講義は4時半にはだいたい終わります。スペイン語、中国語、英語でのプレゼンテーション技術や学術講義、TOEICのスコアを上げるための実践的な授業など、ほぼ語学科目を履修しています。長崎外国語大学に入学したのも語学を勉強したかったからです。徐々に英語以外の外国語を学ぶ面白さを味わっています。住まいは大

学から徒歩20分程度のアパートに住んでいます。京都の街は長崎と違って平地ですから、自転車が移動に便利で私も購入して日々活用しています。

京都らしさを

味わっています

時間のある時などはどうされていますか？

野球部にも入部出来ないかとあたってみたのですが、ちょう

など大学リーグなど試合に出るにも時期が中途半端な様で入部はしませんでした。アルバイトはホテルでの配膳をしています。京都の様々なホテルなどに仕事で行くのですが、ホテルの立派な日本庭園を眺めたり出来るのも楽しみの一つです。時間のある時には散歩をしています。どこを歩いていても京都らしさというのか、風情を感じる場面が多々あります。また最近では、甲子園球場にプロ野球を観に行く機会もあり、野球が大好きなのでとても楽しい時間を過ごす事が出来ました。

なかなか充実した留学生生活を過ごされている様ですね。今回が初めての国内留学制度を利用しての留学ですが、参加してみていかがですか？

そうですね、日々「京都らしさ」を新鮮に感じています。例えばお店に入った時、コンビニなどでもそうですが「おおきに」との店員の方の言葉遣いなど日常にそれを感じます。

長崎では無かった事としては自転車の多い事でしょうか。たくさん自転車が街中を走っています。時々ベルも鳴らさずに近づいて来られると慣れていないためかヒヤッとしますね。国内留学する事については他大学で、まとまった期間勉強出来る貴重なチャンスを取った、と思っています。海外でなく、国内でもまとまった期間違う場所に身を置く事で自分自身についても新たな発見が出来る様にも



松坂 慎一郎さん

思います。しかし半年間は短いので出来れば1年間留学するの良いと思います。せっかくですから様々な人と関わって欲しいですね。あと自転車はあった方が便利です！

長崎外国語大学は 留学生と親しくなれる 機会が日常にある

規模や施設など、京都外国語大学と長崎外国語大学では様々な違う点があると思います。今回留学されてみて、長崎外国語大学の良い点だと思ふ事は何かありましたか？またこうあって欲しい、という様なリクエストは何かありますか？

こちら京都外国語大学は規模も大きいですが、留学生をあまり見かけない気がしますね。それに比べると長崎外国語大学はやはり留学生と触れあえる、親しくなれる機会が日常の中にあるのだ、と改めて感じます。他には、昼の学食はとても混雑します。こちらに比べれば長崎外国語大学はまだスムーズに席に座れたな、と感じるほどです。京都外国語大学の良い点としては、年に2回までTOEIC

など語学検定を無料で受験出来る事が挙げられますね。また大学内にコンビニが入っていて、そのすぐ横にラウンジスペースもあるのが昼食や休憩の際に便利に感じています。

現在、4年生ですが今後の目標を教えてください。

やはり、何と云っても卒業までに内定を得て、就職を決めたいです。出来れば、多くの人とコミュニケーションを取れる様

2年生に聴く

大川 明夏さんは現代英語学科2年に在籍されています。日々の授業や友人との語らい、学外でのボランティア活動など楽しくも充実した大学生活を過ごされています。

現在大学2年生ですね。どの様な毎日を過ごされていますか？

交通機関の都合などもあり、朝早くから登校する事が多いです。現在は英語とフランス語を中心に勉強していますが、特に英語の学修に力を注いでいます。日々の宿題も多く大変です。特にジェフ先生 (Jeffrey Macpherson 講師) の「Current Topics in



大川 明夏さん

な仕事に就きたいと希望しています。様々な人と関わる事がやはり好きなので。それと、現在学修中のスペイン語や中国語にも非常に面白さを感じています。これらの語学ももっとスキルアップさせたいです。

今日はどうも有難うございました。残りの留学期間を是非充実したものにして下さい。

(電話によるインタビュー 2011年6月28日)

the World」の講義では、毎回、英語の新聞記事を引用してレポートを書いています。大変ですが毎回興味あるテーマで面白いです。

その興味を持って受講している講義についてもう少し詳しく聴かせて下さい。

毎回、学ぶ事が多い講義です。講義名通りに、現代のアメリカが抱える社会の諸問題、例えば銃の規制や、黒人差別などの問題を学ぶ事でアメリカについての理解を深めている様に感じられます。私自身はアメリカにはまだ行ったことは無いですが、歴史にもそんなに興味は無かったです。この講義を通じて

アメリカの近・現代史にも興味が出てきました。2年生からはアルバイトも始めて、課題への取り組みなど時間の上でハードに感じる事もありますが、「学んでいる」との充実感が感じられます。

大川さんは、大学での講義以外にもいろいろ活動をしている様ですね。

昨年の11月から今年の3月まで長崎市のボランティア育成講座を受けました。受講されていたのは全部で50人くらいでしたが60代、70代の方が多く10代での受講は私ひとりでした。このボランティアを通じて他のガイドの方々や話す機会も多いのですが、活動的な方が多く、刺激を受けます。高校生までは、だからと過ごしてしまう事が多かったのですが、私も活動的な社会人になりたい、と思う様になりました。旅行にも興味があります。去年の夏休みには、オーストラリアとヴェトナムに行きました。オーストラリアは高校生の時、ホームステイでお世話になった家を再度、訪ねる事が出来ました。今年の夏はどう過ごそうか現在思案中です。

本学へのリクエストなどあれば教えてください。

留学先にオーストラリアを入れてほしいです！せっかくオーストラリア出身のジェフ先生もいる事です！是非お願いします。

(2011年7月7日 於 本学応接室)

の 新 設 について

本学は2001年の開学から今年で10周年を迎えます。また学校法人長崎学院は1945年、終戦の焼け跡の灰の中から、いち早く未来に向けて立ち上がるべく創立されてから65周年を迎えます。現在、これらを記念しての記念事業が計画されています。記念事業実行委員会事務局の坂上剛理事に記念事業に関する文章を寄せてもらいました。

学校法人長崎学院創立六十五周年・ 大学開学十周年記念事業について

学校法人長崎学院は本年をもちまして創立六十五周年、長崎外国語大学は開学十周年を迎え、これらを記念して記念事業を行います。

学校法人長崎学院は、終戦直後の1945年12月1日に、キリスト教の理念に基づき、世界平和と国際交流に貢献する人材の育成を目指して創立されました。当初は長崎外国語学校として出発、これを母体に1950年4月には長崎外国語短期大学として発足し、本年3月に事実上最後の卒業生として第59期生を社会に送り出しました。現在までの本学院からの卒業生総数は一万人を超え、国の内外を問わず、世界で活躍されています。

長崎外国語大学（外国語学部）は、短期大学のこの栄えある伝統を礎に2000年4月に開設され、20

09年4月には短期大学を発展的に吸収統合して「現代英語学科」を新設し、従来の「国際コミュニケーション学科」と併せて1学部、2学科体制に生まれ変わわり、いま大きく羽ばたこうとしています。

学校法人長崎学院と長崎外国語大学のこの大きな節目を記念し、記念事業として「コミュニケーション・ラウンジ」の新設を計画して皆様からのご寄付を現在募っています。

大学はいま、語学力・コミュニケーション力・人間力の養成を目標に、また、「キャンパスが世界」（多くの留学生と日本人学生が共に学ぶ国際交流拠点としてのキャンパス）の旗印の下に、それにふさわしい施設・設備の拡張を目指しています。新たなコミュニケーション・ラウンジは、

現在の学生ラウンジと旧食堂スペースに大改修を加え、学生たちが憩い、語り合い、楽しく学びあう事の出来るコミュニケーション空間を新たに創出する事、また、

コミュニケーション・ラウンジについて

それでは新しいラウンジの概要をお伝えしましょう。完成予想図をご覧ください。

（詳しくは本学のホームページ、「学校法人長崎学院創立65周年・長崎外国語大学開学10周年」のコミュニケーション・ラウンジ新設のお知らせ」をご覧ください）

<http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/information/important/kinenjyou.html>

入口を入ると(図③)、ホールにはショウケースがあります。そこには本学の世界各国にある協定校に関する情報や、これらの大学等から贈られた記念品などが飾られています。正に、大学の顔になると言ってもいいペースです。(図①)そこ

卒業生の皆様が来学された際にお寛ぎ頂き、気軽に在学生と語り合える場所を提供する事を目的としています。

を進むと学生への各課室からの連絡掲示板が並んでいます。壁には液晶モニターが設置され、学内行事のほか、本学の様々な情報が常に流されています。(図②)続いて進むと旧食堂だったスペースが大きく変貌しています。今まで食堂へ行くのに外に出て回って行く事しか出来ず、雨の時や寒い時など大変でしたが、改修後は食堂への通路を設置し(図④)、外へは屋根付きの通路を通って食堂へ行くことが出来るようになります。(図⑤)では、ラウンジスペースへ移動しましょう。(図⑥)このスペース内部には三角形や丸いテーブルが幾つも並んでいます。友人との語り合いや課題などの共同作業への取り組みなど、

コミュニケーション・ラウンジ

長崎学院 創設65周年
長崎外国語大学 開学10周年
記念事業



①：入口ホール



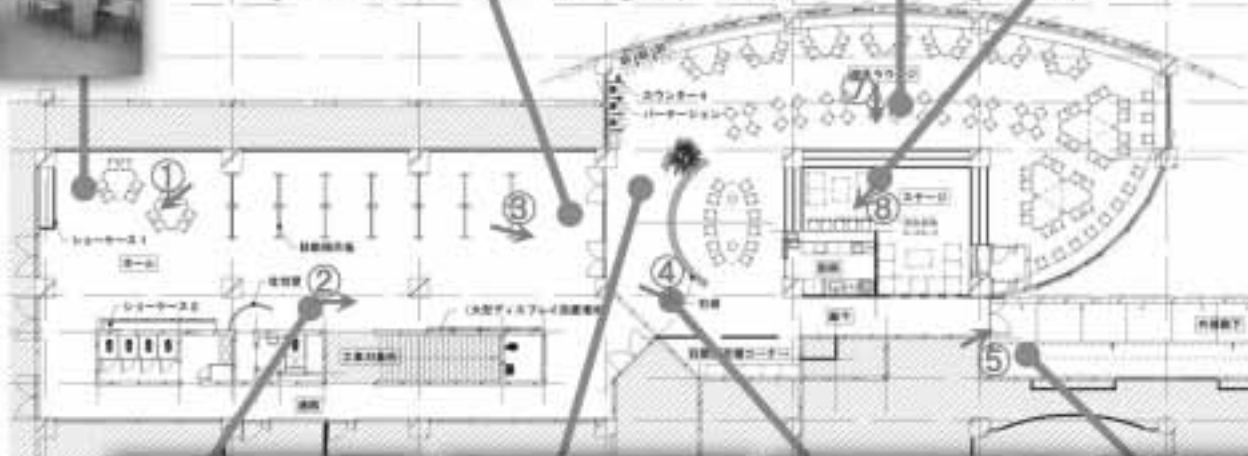
②：コミュニケーションラウンジ入口



③：ラウンジ内正面ステージ



④：ミーティングコーナー



→ 視野角度



①：入口ホール → 移動掲示板



②：ラウンジへ



③：食堂への通路(ラウンジ内)



④：食堂への通路

様々な活用して頂きたいと思えます。本学を利用される皆様に解放されたスペースです。また中央部分は、床面より三段ほど高くなっており、オープンキャンパスや学園祭の時など、ステージとしても利用出来る仕組みになっています。(図⑦)この「ミーティングコーナー」にはソファも設置されています。教員と学生、留学生と日本人学生、卒業生の方々との語らいなど、全ての人に憩いの場となるはずです。(図⑧)窓際にカウンター仕様のテーブルもあり、パソコンを使用することもできます。また、携帯電話やパソコンの充電器も設置いたします。

ご寄付のお願い

さて、本事業を推進するに当たっては、本学院卒業生の皆様はじめ、関係者の皆様のご支援が欠かせませ

ラウンジの中には組み込まれています。どこに設置されているでしょうか？答えは是非、皆様ご自身の目でご確認いただきたいと思えます。そして、本学院で過ごされた懐かしい学生時代をどうぞ思い出されてください。短大の閉学を記念してのプレートも設置されています。卒業生の皆様がこれを機に改めて本学との縁を感じて頂ける事を期待しております。そして現在、在学している学生達とも交流して頂き、学生と本学の未来を応援頂ければ嬉しく存じます。

どうぞ、卒業生の皆様はもちろんの事、在学生の保護者様、本学とご縁のある皆様方、お誘いあわせて御来学頂ける事を楽しみにお待ちしております。

ん。5月末現在までに233件、684万円のご寄付を頂戴しております。目標額は2,000万円であり、

現在その約三分の一を頂いている状況です。今回のコミュニケーション・ラウンジ新設事業は、今後本学が大きく羽ばたいていくうえにおいて必要な改修工事です。どうか趣旨をご理解いただきまして、既にご寄付頂いた皆様も、今一度のご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

尚、本件へのご寄付に際しましては領収書とともに「寄付金の所得控除のできる証明書」も同封して送付してまいります。来年の確定申告のおり、ご利用頂きますので宜しくお願い申し上げます。

学校法人 長崎学院創立
六十五周年・大学開学十周年
記念事業実行委員長

坂上 剛

寄付金の振込み手続きについて

1. 郵便局をご利用の場合

- ・赤の払込取扱票をご利用下さい。手数料は加入者負担となっておりますので掛かりません)
- ・口座記号番号
01700 - 3 - 125018
- ・加入者名
長崎学院記念事業
- ・ご依頼人の欄に住所、名前、お電話番号をご記入下さい。卒業生の方は卒業年度もご記入下さい。

2. 銀行振込をご利用の方

(1) 十八銀行住吉支店

- ・口座名義
長崎学院記念事業 代表 粟屋 曠
- ・預金種目
普通預金
- ・口座番号
1025134

寄付金に対する免税措置について

学校法人長崎学院は、文部科学省から寄付金募集について、特定公益増進法人の証明書交付を受けております。ご寄付いただきました金額は、**税法上の優遇措置を受けることができます**。詳しくは本学のホームページをご覧ください。

(2) 親和銀行住吉支店

- ・口座名義
長崎学院記念事業 代表 粟屋 曠
- ・預金種目
普通預金
- ・口座番号
7635193

銀行よりお振込みの場合、**振込手数料を差し引いてお振り込み下さい**。

ご依頼人の欄に住所、名前、お電話番号をご記入下さい。卒業生の方は卒業年度もご記入下さい。ご寄付に関するお問い合わせは095 - 840 - 2000 (担当：森脇、坂上) までお気軽にどうぞ。

海外インターンシップ 開始

充実した海外留学は以前から本学の教育プログラムの中核のひとつでした。これに加えて海外での「インターンシップ」プログラムもこの夏から開始されます。

インターンシップとは、学生が将来の進路・職業選択のきっかけを得ることを目的として主に夏休み等の長期休暇期間に企業や官公庁で就業体験を行う事です。既に国内でのインターンシップについては、長崎はじめ熊本・大分など九州各県の企業や官公庁、ホテルなどでの実習に多数の学生が参加してきており、本学では一定の条件を満たす事で単位を認定しています。今夏から実施されるこの海外インターンシップは、石川学長へのインタビュでも触れていた文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に採択された本学の「全学的就業力育成



長崎外国語短期大学 閉学記念碑を設置

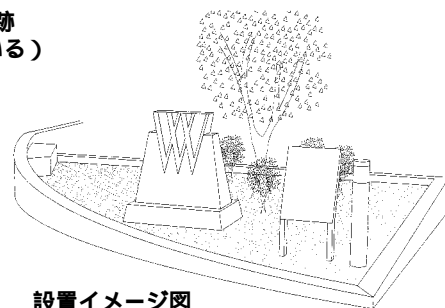
2011（平成23）年7月7日付で短期大学の廃止が文部科学省から認可され、名実共に長崎外国語短期大学はその幕を閉じました。これを記念して懐かしい泉町校舎跡に記念碑の設置が計画されています。その形状は、現在も長崎市公会堂の一画にあるものと同じ本学の校章を模ったものとなる予定です。本学の校章は新約聖書の言葉「私は道であり、真理であり、命である」という意味のラテン語 Via Veritas Vitaの頭文字を組み合わせたものです。本学院は最初に事務所を開設した長崎馬町から魚の町（日本大工町）、そして泉町と時代の趨勢と本学院の発展に伴い、所在地を変遷させてきました。中でも1959年から37年間の長きに渡り、キャンパスをおいた泉町には懐かしい思い出を持っておられる卒業生も数多くおられる事と思います。近年では付近の道も整備され、泉町キャンパスの跡地には現在では大きなマンションが建っています。記念碑が設置されるのは旧泉町キャンパスの正門が在った場所近く、時期は7月下旬を予定しています。揺籃の魚の町時代、発展の泉町時代の確かな歴史が、現在の時津町元村郷のキャンパスへと繋がっています。



現在の住吉商店街



現在の泉町キャンパス跡
(マンションが建っている)



設置イメージ図



私の一冊

「歳月」

茨木のり子

花神社 2007年



茨木のり子については、最近では新聞のコラム等でも取り上げられる事が多く、詩人としてその名前を御存じの方も多いと思うが、どの様な印象をお持ちだろうか。

「自分の感受性くらい、自分で守れ ばかものよ」の一節が有名な「自分の感受性くらい」や「倚りかからず」などの作品の様な、背筋の通った、凜とした人とのイメージをその作品から想像される方が多いのではないだろうか。

今回ご紹介する詩集「歳月」は、著者が夫・三浦安信氏への想いを綴った遺稿である。

おそらくこの作品を読まれた方は驚かれるのではないかと思う。今までの氏の作品では読むことの無かった様なあまりに率直な言葉に。この作品では、詩人を支えたものが何だったのか濃密で官能的な言葉で、しかし日常の言葉で綴られている。いつもの様にユーモアを交えながら、初めてこの詩集を読んだ時それまで氏の作品を読んで感じてきた美しさや強さが、何に基づいていたのか、腑に落ちた様に感じ、「ああ、やつぱり」とか「なるほど」とでも言う様な、安堵感の様なものを感じた。そしていつそうこの詩人の存在が、その作品が大切なものと感じる様になった。

ほんものが、ほんとうの人やものは、確かにあるのだと感じられる、爽やかな一冊である。一篇だけ紹介したい。

姿がかき消えたら
それで終わり ピリオド！
とひとびとは思っているらしい
ああおかしな なんと純さ

みんなには見えないらしいのです
わたくしのかたわらに あなたがいて
前よりも 烈しく
占領されてしまっているのが

「占領」

生野 耕信（総務課 係長）



システムの再構築」の取り組みの一つとして行われるものです。その内容は中国の厦門（アモイ）理工学院と台湾の高雄大学、それぞれの協定校において語学研修を受けながら関連企業で就業体験をするというものとなっています。今回は6名ずつが参加予定との事です。貴重な学生時代の長期休暇は旅に出るなど普段出来ない体験をする事で是非とも視野を広めて欲しいところですが、このプログラムでは海外の協定大学での研修と企業でのインターンシップという幅の広い「異文化体験」をする事が可能な内容となっています。正に本学が目指す、世界の幅広い分野で活躍出来る「就業力」を涵養する絶好の機会となる事でしよう。



ANA との産学連携が開始

本学はANA（全日本空輸株式会社）グループのシンクタンクである株式会社ANA総合研究所（以下ANA総研）と産学連携協定を3月30日に締結しました。調印式にはANA総研より代表取締役副社長、全日本空輸（ANA）長崎支店長も来学されて調印式が行われました。

本学の現代英語学科では、専門教育プログラムとして「国際ビジネス」「航空・観光ホスピタリティ」「通訳・翻訳」「英語専門職」「異文化・国際理解」の5つが用意されているが、ANAとの連携では特に「航空・観光ホスピタリティ」分野での「エアライン・ホテルサービス論」「ホスピタリティ演習」など4つの講義科目においてANAからの実務家教員と本学教員が連携して講義を行い、ホスピタリティやコミュニケーション能力の育成に取り組んでいます。また最近では現役のCA（キャビンアテンダント）による就職説明会も開催されるなど、ANAとの連携による就業力育成のための取り組みは今後ますますの拡大と発展が期待されています。



調印式の様子

お問い合わせ先一覧

お問い合わせ内容	お問い合わせ先	お問い合わせ時間
ご寄付について	記念事業実行委員会事務局 電話：095 - 840 - 2000（担当 森脇、坂上）	月～金 8：30～17：30
卒業生の住所・氏名の変更等について	同窓会事務局 電話・FAX：095 - 840 - 2010	
各種証明書について （卒業証明書、成績証明書など）	学生支援室 教務係 電話：095 - 840 - 2002	月～金 8：30～17：30
本学の入試等について （社会人特別入試含む）	入試広報室 電話：0120 - 427 - 001	月～金 8：30～17：30
授業料・学納金について	経理課 電話：095 - 840 - 2003	月～金 8：30～17：30
ぶどうの樹について	総務課 電話：095 - 840 - 2000	月～金 8：30～17：30

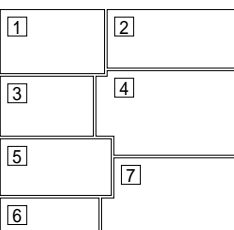
編集後記

『ぶどうの樹』第8号をお読み頂き有難うございました。学生へのインタビュー記事などを通じて、現在の本学の様子を少しでもお伝えする事ができましたでしょうか？本誌作成については慌しいスケジュールでしたが、少しでも卒業生はじめ関係者の皆様が友人との出会いや、今も心に灯り、自分を豊かに耕すきっかけとなった誰かの何気ないひと言など、本学で過ごされた時間の中でのよいもの、ほんとうのものとの出会いを何か一つでも思い出すきっかけとなれば嬉しく思います。今後もより充実した内容とするために、読者の皆様からのご意見・ご感想などをお待ちしています。また活躍されている卒業生についてなどの情報もお知らせください。

最後にインタビューに答えて下さった皆様、そして何よりも本誌を手にとって下さった読者の皆様、本当に有難うございました。（生野 耕信）

●表紙写真

- ①キャンパスにて石川学長と愛車（自転車）
- ②ANA現役CAによる説明会が行われた
- ③本学の小さなバラ園には色とりどりのバラが咲いている
- ④キャンパスでの1コマ
- ⑤2階和室での筝曲部の練習風景
- ⑥キャンパスの片隅に咲く野の花
- ⑦昼休みの学食での1コマ



名誉教授・名誉学長の称号授与

本学に対し功績のあった3名の方々にそれぞれ名誉教授・名誉学長の称号が授与されました。

名誉教授・名誉学長

光田 明正 氏（長崎外国語大学・長崎外国語短期大学 初代学長）

池田 紘一 氏（長崎外国語大学・長崎外国語短期大学 第2代学長）

名誉教授

阿南婦美代 氏（本年3月までフランス語科目等を担当）



光田 明正氏
7/12 本学にて



池田 紘一氏
6/27 福岡の御自宅にて



阿南婦美代氏 6/30 本学にて